

第1日 主題文を発見して要旨をとらえる(1)

演習問題 01

《解答》問1 village 問2 ④

《考え方》問1 支持文(第2文~最終文)の内容から、このパラグラフの話題を考える。

問2 5つの支持文の内容にふさわしい共通の形容詞を選ぶ。

《パラグラフの構成》第1文が**主題文**(1番言いたいこと=結論)である。第2文~最終文は、その結論を言うための根拠を述べた**支持文**である。図表で示すと次のようになる。

文	役割	内容
第1文	主題文(結論)	イギリスの村は魅力がある。
第2~3文	支持文 (結論の根拠)	① 家は緑に囲まれ、花の咲く庭がある。
第4文		② 教会が必ずある。
第5文		③ 小川が家のそばを流れる。
第6文		④ 通りは清潔で整然としている。

《全訳》イギリスの村はたいがい、とても魅力のあるところである。それは1つの小さな集落で成り立ち、その家屋は緑の牧草地、灌木、樹木に囲まれている。すべての家には庭があり、そこでは花が春から秋にかけて咲いている。教会が必ずあり、その隣には墓地があり、1軒のパブ(居酒屋)や1軒の雑貨屋がある。小川が家のそばを流れていることがある。多くの場合、通りは1本しかないが、清潔で整然と保たれている。

演習問題 02

《解答》問1 ④ 問2 ④

《考え方》問1 Howeverで始まる第2文が**主題文**である(→K07④)。主題文の主語は、パラグラフの話題を提示することが多い。主題文中の dress code at school=選択肢④の school dress rules 問2 主題文は端的に結論を述べた文、つまり**パラグラフを要約した文**である。主題文とその後に続く第3文の内容から、「④ 学生が適度な服装をするのに役立つならかの手引きが必要である」が正解となる。

選択肢の訳 ① 服装は学生が自分の気持ちを表現するのにふさわしい手段ではない。 ② 今の衣服スタイルは特別な学校の服装規定を必要としない。 ③ おなかを見せることはおしゃれで、不快なことではない。 ④ 学生が適度な服装をするのに役立つならかの手引きが必要である。

《重要語句・表現》L4 so short that part of the person's body can be seen 「身体の一部が見えてしまうほど短い」 so ... that ~は「結果」を表すが、本文のように「~ほど」という意味の「程度」を表すこともある。 L8 get out of control 「收拾がつかなくなる」

《パラグラフの構成》

文	役割	内容
第1文	支持文(前置き)	学生は服装で自分を表現できると信じる。
第2文	主題文(結論)	学校には服装規定が必要である。
第3~7文	支持文(結論の補足)	その服装規定は厳しいものではなく、現実的なものが合理的である。
最終文	支持文(結論の根拠)	服装規定が必要な理由

《全訳》私は、学生は自分の服装で自分を表現することができるかと信じる。しかし、学校にはある種の服装規定があるべきだと思う。それは厳しいものではなく、だれもが守れるような現実的なものであるべきである。私が適切だと思う規定はシャツやブラウスが身体の一部が見えてしまうほど短くてはならないというものである。他人のむき出しの腹部が見えると、特に嫌がる人もいる。また、他人の下着が見えてしまうのもよいことではない。これで気分を害する人もいるし、失礼な行為と見なされる。学校に服装規定がなければ、最近の(行き過ぎた)ファッションの中にあっては、收拾がつかなくなることもありうる。

演習問題 03

《解答》問1 ② 問2 シェークスピアの劇は、おかしみと悲しみが同時に混在しているので、人生そのもののように思われてくる。

《考え方》問1 どの文も「シェークスピアの書いた劇」について述べている。history plays, comedies, tragedies はいずれも劇の類である。 問2 最終文がこのパラグラフの主題文で、筆者の言いたい結論である。

《パラグラフの構成》

文	役割	内容
第1~4文	支持文(導入)	シェークスピアは史劇、喜劇、悲劇を書いた。
第5文	支持文 (結論の根拠)	シェークスピアの劇を見ると、同時に笑いたくも泣きたくもなる。
最終文	主題文(結論)	おかしみと悲しみが混在しているので、シェークスピアの劇は、人生そのものようである。

《重要語句・表現》L1 play 「劇、戯曲」

《全訳》シェークスピアは様々な種類の戯曲を書いた。彼の史劇は英国や古代ローマの歴史に材をとっている。彼の喜劇はおかしく、変幻自在で、ふつう恋とロマンスの話である。彼の悲劇では悲しいことや恐ろしいことを語り、それまでに書かれたなかでも最も優れた詩がいくつか含まれている。彼の劇を見ると人は同時に笑いたくも泣きたくもなる。このようにおかしみと悲しみが混在しているので、彼の劇は人生そのもののように思われてくる。